

岩倉街道について

岩倉(いわくら)街道は、現在の清須市(下小田井村)から、名古屋市西区山田地区の西部(中小田井村・上小田井村・平田村)を通り、北名古屋市、岩倉市、一宮市東端、江南市、扶桑町を経て犬山市へと向かう街道です(終点にはいくつかの説がありますが、犬山へ通じています)。

江戸時代に入り、清洲から名古屋へと城が移ったのちに開設され、大消費地である名古屋城下の庄内川対岸に位置する下小田井に設けられた青物市場へと野菜が運ばれました。

岩倉街道に関して記載されている資料とその主な内容をご紹介します。

1. 『日本歴史地名大系 第23巻 / 愛知県の地名』(平凡社) **N291** タイトルコード 1009210155480 ★314 ページ

【主な内容】

- ◇ 犬山街道・柳(やなぎ)街道・九ノ坪街道とも
- ◇ 名古屋城下と犬山城下を結ぶ街道
- ◇ 下小田井村の枇杷島橋～庄内川西堤を北上～中小田井村【春日井郡】～九之坪(くのつぼ)村【春日井郡】～岩倉村【丹羽郡】～小折(こおり)村【丹羽郡】～安良(やすら)村【丹羽郡】～力長(りきなが)村【丹羽郡】～犬山城下
- ◇ 江戸時代、丹羽郡内から街道をとおして、「土物」を中心に名古屋へ出荷。ごぼう、にんじん、つくねいも、うど、たけのこ、きゅうり、輪切干大根
- ◇ 岩倉と小折に六斎市あり

2. 『角川日本地名大辞典 23 / 愛知県』(角川書店) **N291** タイトルコード 1009410049528 ★179、1612 ページ

【主な内容】

- ◇ 犬山街道。岩倉街道ともいう
- ◇ 名古屋～犬山間を結ぶ往還。名古屋城下～九之坪～大山村～石仏～小折～安良～犬山
- ◇ 『尾張徇行記』によれば、このうち名古屋城下～岩倉村辺りまでを岩倉街道と称していた。『丹羽郡史』『丹羽郡誌』か]では、小折より南を岩倉街道とする
- ◇ 慶長 15(1610)年名古屋城築城後にできた主要道路

3. 『西春と岩倉街道』 岩倉街道調査委員会／編（西春町教育委員会） **A68**
 タイトルコード 1009916069485

【主な内容】

- ◇ 平成元(1989)年の西春町内における岩倉街道の航空写真あり
- ◇ 昭和 26(1951)年の同じ部分の航空写真あり
- ◇ 西春町内の岩倉街道に関する詳しい調査報告書
- ◇ 岩倉街道全体の解説(7ページ～14 ページ)
- ◇ 参考文献一覧(184 ページ～185 ページ)
- ◇ 歴史的に、街道の、犬山～岩倉、岩倉～名古屋は別に整備されたもの。岩倉以南は、慶長 15(1610)年の清洲越しをきっかけに整備。最終的な整備は寛文 5(1665)年から寛文 7(1667)年。道幅は 2 間 2 尺
- ◇ 街道は、枇杷島橋の西の橋詰めを起点とする。ここより、美濃路とわかれ、犬山にむかう
- ◇ 岩倉から犬山に至る街道が織田信長によって開かれたのは天正 5(1577)年。公的には犬山街道と称されていたが、俗に柳街道とも
- ◇ 枇杷島橋から犬山まで約 24 キロメートル

4. 『なごやの古道・街道を歩く』 池田誠一／著（風媒社） **A295**
 タイトルコード 1009916079463 ★106 ページ～113 ページ

【主な内容】

- ◇ 慶長 15(1610)年の清須から名古屋への城の移転を機に、下小田井市場(青物市場)を開設
- ◇ 市場に野菜を運ぶ重要な道のひとつが、岩倉街道(寛文 7(1667)年開設)
- ◇ 起点は、美濃路に合流したということから枇杷島橋の西詰。終点ははっきりせず、岩倉から先は、小折(こおり)(江南市)までか、犬山までか説あり。岩倉から犬山への道は、犬山街道とか柳街道(柳大道)とも呼ばれた
- ◇ 下小田井の市場は、昭和 30(1955)年にもとの位置から 700 メートルほど東に移転。さらに、昭和 58(1983)年に、豊山町の北部市場として移転

5. 『あいちの街道ひざくりげ』 谷彰／著（第一法規出版） **NA29**
 タイトルコード 1009210219431 ★64 ページ～67 ページ

【主な内容】

- ◇ 名古屋から、小田井(西区)、九の坪(西春)を経て、岩倉に入り、石仏(いしほとけ)まで続く街道。街道はさらに、小折(江南)、力長(江南)、柏森(扶桑)を経て、犬山へ

6. 『愛知県史 別編[7] 文化財1 / 建造物・史跡』

愛知県史編さん委員会／編集（愛知県） **A20**

タイトルコード 1009916014530 ★307 ページ～308 ページ

【主な内容】

- ◇ 中小田井(名古屋市町並み保存地区 昭和 62(1987)年 7 月 13 日指定)
- ◇ 寛文 7(1667)年に、枇杷島橋西詰から庄内川の堤防を経て中小田井村を通って岩倉へ抜ける、通称岩倉街道が開かれた
- ◇ 岩倉街道の開通により現在に続く中小田井の町並みが成立
- ◇ 庄内川堤防の急坂という運搬の難所に位置したために、休憩や生活用品の購入場所として商家が建つ
- ◇ 現在残る町並みは、明治 24(1891)年の濃尾地震後のもの

7. 『愛知県史 第3巻 復刻版』（中部経済新聞社） **NA20**

タイトルコード 1009210023752 ★509、514 ページ

【主な内容】

- ◇ 春日井郡小田井村より丹羽郡小折村に至る、里程 3 里 24 町 55 尺の三等国道として掲載
- ◇ 一方、県道改修の項目にも掲載があり、明治 19(1886)年 8 月一部改修着手、同 20(1887)年 12 月竣工、長程 752 間 3 尺、幅 15 尺

8. 『愛知県紀要』 愛知県/編 **S0A2**

タイトルコード 1009940021483 ★215 ページ

【主な内容】

- ◇ 県道として岩倉街道の掲載あり。起点は丹羽郡布袋町、終点は西春日井郡西枇杷島町、3 里 25 丁 16 間

9. 『名古屋の史跡と文化財 新訂版 第3版』 名古屋市教育委員会／編 **A295**

タイトルコード 1009910010886 ★204 ページ

【主な内容】

- ◇ 中小田井町並み保存地区について
- ◇ 岩倉街道は寛文 7(1667)年に通され、周辺農村の野菜類を城下の枇杷島市場へ運ぶ主要道

10.『小田井地区（岩倉街道）名古屋市歴史的景観地区調査報告』

(歴史的環境研究会) NA295

タイトルコード 1009310056679

【主な内容】

- ◇ 中小田井地区の歴史的景観に関する調査報告書
- ◇ 「Ⅰ小田井地区の沿革」「Ⅱ小田井地区の現況」「Ⅲ小田井の町並景観」「Ⅳ小田井地区の生活環境」「Ⅴ景観・保全計画」
- ◇ 岩倉街道は、枇杷島から庄内川の右岸ぞいに北上、下小田井、中小田井、上小田井に出て、稲生路(街道)と合して岩倉へ達する
- ◇ 稲生街道は、浄心から稲生、庄内川を稲生の渡でこえるルート
- ◇ 岩倉街道は鉄道の敷設により変化するが、大正時代はまだ往来が激しかった
- ◇ 明治以降の中小田井の変化を示す地形図

11.『山田村誌』山田村誌編纂委員会／編 NA25

タイトルコード 1009210065142 ★61～62 ページ

【主な内容】

- ◇ 県道である岩倉西枇杷島線は古来岩倉街道と称し、庄内川の西岸枇杷島橋の北端において国道より分岐。西枇杷島町大字下小田井より山田村大字中小田井を過ぎ新川に架かる平田橋を渡り、大字平田地内を北進。岩倉を経て美濃に達する線。慶長年間の名古屋城築城の際に改修された街道と言われている

12.『山田地区30年のあゆみ』

(山田地区名古屋市合併 30 周年記念事業実行委員会記念誌部会) NA295

タイトルコード 1009310040555

★197、239～243、338～339 ページ

【主な内容】

- ◇ 岩倉西枇杷島線(旧岩倉街道)は、山田村の名古屋市合併前の県道の一つ
- ◇ 山田地区はほぼ中心に岩倉街道が通っていたが、駅も設けられておらず、徒歩移動がほとんど。徒歩移動には、道程が重要
- ◇ 平田村・中小田井村の人々は、岩倉街道から枇杷島橋を渡って名古屋に出たが、上小田井村・大野木村・比良村の人々は、稲生の渡しを経て稲生道から名古屋へ出た
- ◇ 明治に入り、岩倉から岩倉街道を平田、中小田井と通り、枇杷島橋を渡り美濃街道を押切から名古屋城西の好生館まで乗合馬車が運行されていた。停車駅も決められ、2時間おきの運行のため時間馬車といわれた

- ◇ 庄内川の西岸、枇杷島橋の北端において、旧国道から分かれて庄内川堤防を北に向かい、中小田井南出の坂をおり、中小田井の町並みを抜け、新川に架かる平田橋を渡り、平田出町を通り、岩倉市から岐阜県各務原、関方面へ至る道
- ◇ 慶長 15(1610)年の名古屋城築城の際に改修された街道

13.『西区70年のあゆみ』西区制 70 周年記念誌編纂委員会／編 **NA25**
タイトルコード 1009210092394 ★68～72 ページ

【主な内容】

- ◇ 稲生街道が中小田井木曾橋で合する岩倉街道は、美濃路の枇杷島橋西端を起点として、庄内川に沿って北上し、中小田井、平田から九之坪、岩倉方面とを結ぶ街道。枇杷島市場への米・野菜等の運搬、生活用品の運搬などで、山田方面の人々にとって、稲生街道と同じく重要な街道であった

14.『西区100年のあゆみ』西区制 100 周年記念事業実行委員会／編集 **A25**
タイトルコード 1000810015648 ★48、244 ページ

【主な内容】

- ◇ 枇杷島橋から岩倉を通り、犬山まで通じる岩倉街道は枇杷島橋から庄内川に沿って北上し、下小田井、中小田井、上小田井を通過して稲生街道と合流して岩倉に達していた
- ◇ 岩倉街道は師勝や岩倉から山田一帯の農産物を枇杷島市場に運ぶのに用いられた街道

15.『愛知県西春日井郡誌 復刻版』(千秋社) **A296**
タイトルコード 1009911075048 ★110 ページ

【主な内容】

- ◇ 県道の布袋西枇杷島線は、古来岩倉街道と称し、庄内川の西岸枇杷島小橋の西端において国道 12 号線と分岐、幼川を経て丹羽郡岩倉町を過ぎ布袋町に至る
- ◇ 慶長年間、名古屋築城の際、熱田街道を改修させたもののようである

- 16.『西枇杷島町史 続編』西枇杷島町史編纂委員会／編（西枇杷島町制 100 周年実行委員会） **NA26**
 タイトルコード 1000810135651 ★346～347 ページ

【主な内容】

- ◇ 文政 10(1827)年 7 月に建てられた美濃路道標の写真あり。道標は、旧枇杷島橋の小橋のたもとに建てられたもので、昭和 31(1956)年 12 月から西枇杷島町公民館の北裏側に移築された
- ◇ 石柱には、「北 いわくら道」と彫られている
- ◇ 旧枇杷島橋は尾張名古屋の西の玄関口「枇杷島口」にあたり、枇杷島橋・小橋を渡ったところで西に美濃路、北に岩倉街道が延び、両街道の分岐点であった

- 17.『西春町史 通史編 1』西春町史編集委員会／編（西春町） **NA26**
 タイトルコード 1009210162068 ★172～173、286-287 ページ

【主な内容】

- ◇ 「寛文村々覚書」より、寛文のころ、すでに岩倉街道とも犬山街道とも呼ばれていた。「尾張徇行記」では犬山街道とばかり、「尾張志」では九坪街道と呼ばれている。呼び名はいろいろなっているが、名古屋から九之坪、岩倉を経て犬山へ通じる街道のこと
- ◇ いつできたかということとははっきりしないが、名古屋に城ができて間もないころ、名古屋と犬山を結ぶために作られたものと語り伝えられている
- ◇ 「九之坪平田文書」より、道幅2間2尺であること、九之坪を縦貫する岩倉街道は寛文 5(1665)～7(1667)年の間に開かれたことが明らかである
- ◇ 明治中期の西春村では道路らしい道路は南北に通じる岩倉街道 1 本のみ
- ◇ 明治 12(1879)年調査「愛知県管内国道・県道一覽表」国道三等の部に岩倉街道が出ており、春日井郡小田井村より丹羽郡小折村に至る3里24町余とある。大正 12(1923)年発行の『西春日井郡誌』では、布袋西枇杷島線と名づけられて県道の内に入れられている
- ◇ 明治 10(1877)年に修補されたことが「北里村大字小木大口鏘一氏所蔵文書」によりわかる

- 18.『西春町史 資料編-1-解説』西春町史編集委員会／編（西春町） **NA26**
 タイトルコード 1001110145809 ★8 ページ他

【主な内容】

- ◇ 九之坪村の項目に岩倉街道の記述あり
- ◇ 岩倉街道は、九之坪村の西寄りを南北に貫通していた。名古屋城下から犬山ま

で通じた当時の主要幹線道路。道幅 2 間 2 尺を有し、寛文年間に完成

- ◇ 明治に「国道三等岩倉街道」、大正に「県道布袋枇杷島線」と名をかえた。昭和 39(1964)年に県道名古屋江南線が完工するまで、暮らしを支える道路として長く重要な役割を果たした

19. 『師勝町史 増補版』(師勝町総務部企画課) NA26

タイトルコード 1009310035765 ★203~205、300-301 ページ

【主な内容】

- ◇ 『寛文村々覚書』『尾張徇行記』『尾張志』では、犬山街道・九之坪街道とも呼ばれている。名古屋から九之坪・鹿田・岩倉を経て犬山へ通ずる街道
- ◇ 西春町九之坪平田寺文書より、現在の九之坪を縦貫する岩倉街道が寛文 5(1665)年から同 7(1667)年までの間に開かれたことが知られる
- ◇ 鹿田加藤未明家文書には、街道の両側に柳の木を植えたこと、橋の上を車をひいて通るのはかたく禁じられたことなど、当時の街道の様子が記されている
- ◇ 明治 12(1879)年調査「愛知県管内国道・県道一覧表」によると、岩倉街道は国道三等で、春日井郡小田井村より丹羽郡小折村に至る3里 24 町余。明治 10(1877)年修補された。『西春日井郡誌』では県道の部に入れられ布袋西枇杷島線とある

20. 『岩倉町史 復刻』岩倉町史編さん委員会／編さん(一の丸出版) A27

タイトルコード 1009916076947

★183、365-366、372-373 ページ

【主な内容】

- ◇ 岩倉を通る一番大きい街道は岩倉街道。もと犬山街道とも呼んでいた。現在犬山街道と呼ばれるのは小牧を通るものだが、岩倉を通るのもこう呼んでいた
- ◇ 『寛文村々覚書』より、寛文時代すでに犬山海道とも岩倉海道とも呼んでいたことが知られる。『尾張志』では九坪街道、『尾張徇行記』では犬山街道と呼んでいる。「享和元(1801)年西七月清須方御役所二而此絵図面出来写之」とある図面のうちには、柳海道筋と記されている。明治 24(1891)年実測の元陸地測量部地図には岩倉街道と書いている
- ◇ 名古屋から九之坪を経て岩倉へ来、定井から馬場の東を通り、小折から安良・力長を経て犬山へ通じたもの

- ◇ 明治 24(1891)年測図、同 26(1893)年製版の大日本帝国陸地測量部 1/20000 地形図「一宮町」より、明治初年の岩倉町には南北に長く県道の岩倉街道が通っている
- ◇ 岩倉街道にバラスを入れるようになったのは明治 30(1897)年頃以降のこと
- ◇ 明治 27(1894)年の丹羽郡臨時郡会で作られた「土木費支弁規程」の重要里道 4 線路のうち、第3号が岩倉街道。岩倉通地内県道岩倉街道より分岐し、一宮停車場に通ずる道路中多加森村大字馬見塚以東延長 1 里 14 丁 6 間 4 分 5 厘
- ◇ 明治 41(1908)年 4 月に決議された郡費支弁里道乙号 11 路線のうち、第 1 号が岩倉街道。岩倉町から中島郡一宮町に通ずる本郡内の道路。延長 1 里 14 丁 6 間 4 分 5 厘。巾員 12 尺。明治 41(1908)年 12 月 15 日起工、同 44 (1911)年 3 月 30 日竣工
- ◇ 岩倉街道といわれてきたものは県道の名古屋・布袋線。明治 12(1879)年の調査では 3 等国道の 1 つ。そのころの国道岩倉街道は春日井郡小田井村より丹羽郡小折村に至る 3 里 24 町 055 であった。その後県道に編入され、明治 19(1886)年 8 月一部改修が始まり、同 20(1887)年 12 月に改修工事を終えている。明治 26(1893)年度より舗装が始まった

21.『岩倉市史 上巻』岩倉市岩倉市史編集委員会／編（岩倉市）**NA27**
 タイトルコード 1009310044963 ★93、802～805 ページ

【主な内容】

- ◇ 集落形成の条件としては、市域のほぼ中央部を南北に貫通する犬山街道(岩倉街道)との関係も重要。城下名古屋に向う往還であるとともに、市域で最も広い給地を持つ成瀬隼人正の城地犬山に通じる街道でもあった。馬の背に積んだ年貢米が、村々から運ばれたのはこの道であり、商品を背負った振売りの人たちが行き交う風景もみられたはずである
- ◇ 尾張全体の交通体系の上で岩倉の位置は、さほど重要であったとはいえない。岩倉市域のほぼ中央を南北に貫通する街道は、城下中心の脇街道(名古屋～小牧～犬山)に次ぐ重要な街道であった
- ◇ 名称は犬山街道・岩倉街道・柳街道と複数あり。いつごろから近世村絵図などが示す路線になったかは明白ではない。しかし、『寛文村々覚書』に記載があるので藩政当初から整備されていたことは確実である
- ◇ 名古屋城下から九之坪を経て大山寺で岩倉市域に入り、石仏から加納馬場の東を通り、小折を経て安良・力長から犬山に至った道

20. 『一宮市史 上巻 復刻版』 一宮市／編纂（国書刊行会） **NA27**タイトルコード 1009410095079 ★537～542 ページ

【主な内容】

- ◇ 昭和 4(1929)年の図書計画街路について
- ◇ 一等大路第三類第四号線である岩倉街道西線は、大字一宮字城屋敷 53-1 より大字一宮南流 42(字須ヶ流 19)に至る路線で、幅員 12 間
- ◇ 二等大路第一類第七号線である岩倉街道東線は、一等大路第三類第四号線である岩倉街道西線の終点で二等大路第一類第六号線より分岐し、大字一宮字五輪畑 85-2 に至る路線で、幅員 10 間半

21. 『一宮市史 下巻 復刻版』 一宮市／編纂（国書刊行会） **NA27**タイトルコード 1009410095080 ★259～261 ページ

【主な内容】

- ◇ 藩政時代の重要道路として岩倉車道があげられている
- ◇ 一宮と岩倉間の交通というよりも、三八市場への、付近の村落からの農産物搬入のために改修された

22. 『江南市史 本文編』 江南市教育委員会／編集（江南市） **NA27**タイトルコード 1009911018615 ★344～346、597～599 ページ

【主な内容】

- ◇ 享保 16(1731)年に開設された小折村の市は、犬山街道沿いでは、享保 12(1727)年の岩倉村に次ぐ六斎市
- ◇ 城下町名古屋のために青物を集荷する枇杷島の市場の集荷圏は、中島・丹羽・海東・春日井の4郡にまたがり、各地帯の農民が生産した商品が市場で販売された
- ◇ 犬山街道は、名古屋城下より岩倉をへて犬山へ向かう街道。(名古屋～)岩倉までは岩倉街道と呼ばれる。寛文期頃までには整備されたとみてよい
- ◇ 犬山街道は、名古屋城下と犬山城下を結ぶ街道。その通過地域により岩倉街道・九ノ坪街道・柳街道ともいわれる。名古屋市西区の小田井から北上し、岩倉を経て江南市の小折に至る道で、県道名古屋江南線の道筋にほぼ当たる。小折は岩倉街道と柳街道の結節点に当たる。柳街道は、小折から北東に富士塚・荒門・安良・今市場・力長・前野を通過する
- ◇ 明治 9(1876)年、岩倉街道は、当時の小田井村より小折村に至る3里 24 町 55 尺(約 14.5 キロメートル)の道程で、国道3等に格付けられた。明治 18(1885)年に県道となった

23.『江南市史 資料4 文化編』江南市/編 NA27

タイトルコード 1009210150653 ★80～81 ページ

【主な内容】

- ◇ 県道小口岩倉線に沿って、柳街道(岩倉街道)が江南市の東部を扶桑町にかけて通っていた。犬山から柏森を経て江南市域を北から前野・力長・今市場・安良・小折を通り、岩倉更に名古屋へ通じていた重要道路
- ◇ 天正5(1577)年、織田信長の時代にできたもの。両側に柳が植えられ柳街道といわれ、現在旧道の残っているところは少ないが、道標は各所に残っている

24.『江南市史 近世村絵図編 解説書』

江南市教育委員会/編集 (江南市) NA27

タイトルコード 1009410219148 ★35～54、188～191 ページ

【主な内容】

- ◇ 江南市域に江戸時代に存在した村の絵図(『江南市史 近世村絵図編』)の解説。現在の地図と村絵図の対照あり
- ◇ 岩倉街道の通っていた、(名古屋よりから順に)小折村・安良村・今市場(いまいちば)村・力長村・前野村の様子を解説
- ◇ 木曾街道と並行するように、下小田井村から岩倉、小折、安良、今市場、前野の各村を経て犬山へ至る往還で、岩倉街道とも犬山街道とも柳街道とも呼ばれた

25.『愛知縣丹羽郡誌』愛知県丹羽郡教育会/編 (愛知県郷土資料刊行会)

NA27 タイトルコード 1009210038341 ★60～63 ページ

【主な内容】

- ◇ 県道岩倉街道は、布袋町より名古屋市に通ずるもの。布袋町大字小折から、千秋村の東端を過ぎ、岩倉町を経て、西春日井郡に入る。道程1里34町47間
- ◇ 里道(俗に郡道)岩倉街道は、岩倉町より中島郡一宮町に通ずるもの。岩倉町大字岩倉にて県道岩倉街道より分岐し、千秋村を過ぎ、西成村大字浅野より一宮町に入る。道程1里14町7間

26. 『大口町史』 大口町史編纂委員会／編集（大口町） NA27

タイトルコード 1009410149002 ★202～213、305 ページ

【主な内容】

- ◇ 岩倉街道(柳街道)は、名古屋城が築城された頃から、名古屋と犬山を結ぶ街道として重要。岩倉街道は現在の江南市布袋(ほてい)から名古屋市へ通じるもので、江南市小折から一宮市千秋町の東端を過ぎ、岩倉市から西春町、名古屋市西区山田町を経て、西枇杷島町、名古屋市へ入る。柳街道は、小折の岩倉街道より分岐し、江南市東部(力長、前野)、扶桑町(柏森、扶桑、木津[正しくは犬山市か])を経て、犬山市大字犬山出来町で犬山街道と合流するもの
- ◇ 岩倉街道は下街道と呼ばれ、慶長 19(1614)年に、枇杷島市場ができてから大正までの約 300 年間、この地方の農民が農作物や年貢米を運ぶ道として重要だった
- ◇ 岩倉街道は布袋町(江南市)より名古屋に通ずる県道。布袋町大字小折に発し、千秋村の東部をすぎ岩倉を経て、西春日井郡に入る道程約 7.7km [県史との齟齬について言及あり]

27. 『扶桑町史』 扶桑町／編（扶桑町） NA27

タイトルコード 1009210055099 ★102、280～281 ページ

【主な内容】

- ◇ 岩倉街道(柳街道とも)は、名古屋城が築城された頃から、名古屋と犬山を結ぶ街道として重要であった
- ◇ 明治 24(1891)年 4 月郡制がしかれたころ、旧丹羽郡内の交通機関としては岩倉街道は3線の内の1つであった。明治 27(1894)年の臨時郡会により郡道路4路線の内の1つとされた

28. 『犬山市史 通史編上』 犬山市教育委員会（犬山市） NA27

タイトルコード 1009710062837 ★761～763 ページ

【主な内容】

- ◇ 柳街道は、名古屋から岩倉を経て小折へ至る岩倉街道から分岐し、力長、前野、栢森、扶桑、木津を経て、犬山出来町で犬山街道と合流する街道

29. 『犬山市史 通史編下』 犬山市教育委員会 (犬山市) **NA27**
タイトルコード 1009510004459 ★238～241 ページ

【主な内容】

- ◇ 犬山市域における明治期の道路網の一つ、布袋犬山線は、犬山町出来町の県道名古屋犬山線との分岐点を起点として、南西に向かい、扶桑町栢森から古知野町前野を経て、布袋町小折で、県道名古屋布袋線に通じていた。この道路は柳街道とも呼ばれた

30. 『中部日本の自動車運輸 昭和五年一月調』 (名古屋鐵道局運輸課) **6852**
タイトルコード 1001710018901 ★345 ページ

【主な内容】

- ◇ 旅客及び貨物の自動車運輸について、その経営状態についてまとめた資料
- ◇ 岩倉街道は、名古屋より枇杷島、岩倉、布袋、古知野の諸町を経て、犬山に達する街道

00. 他にも

『名古屋市中小田井町並み保存事業』

(名古屋市住宅都市局まちづくり企画部歴史まちづくり推進室)

A295 タイトルコード 1001210040303

『中小田井 古き良き時代を伝える旧岩倉街道沿いの民家』

(名古屋市教育委員会社会教育部文化課) **A295** タイトルコード 1001310012442

『名古屋市西区魅力&史跡散策路ガイドマップ』

(名古屋市西区) **A295** タイトルコード 1002210017531

『中小田井・岩倉街道発見 MAP ver.2.0』

(中小田井発見プロジェクト KIZURI) **A295** タイトルコード 1002110012464

■ 山田地区を通る岩倉街道 [昭和 30(1955)年 10月]



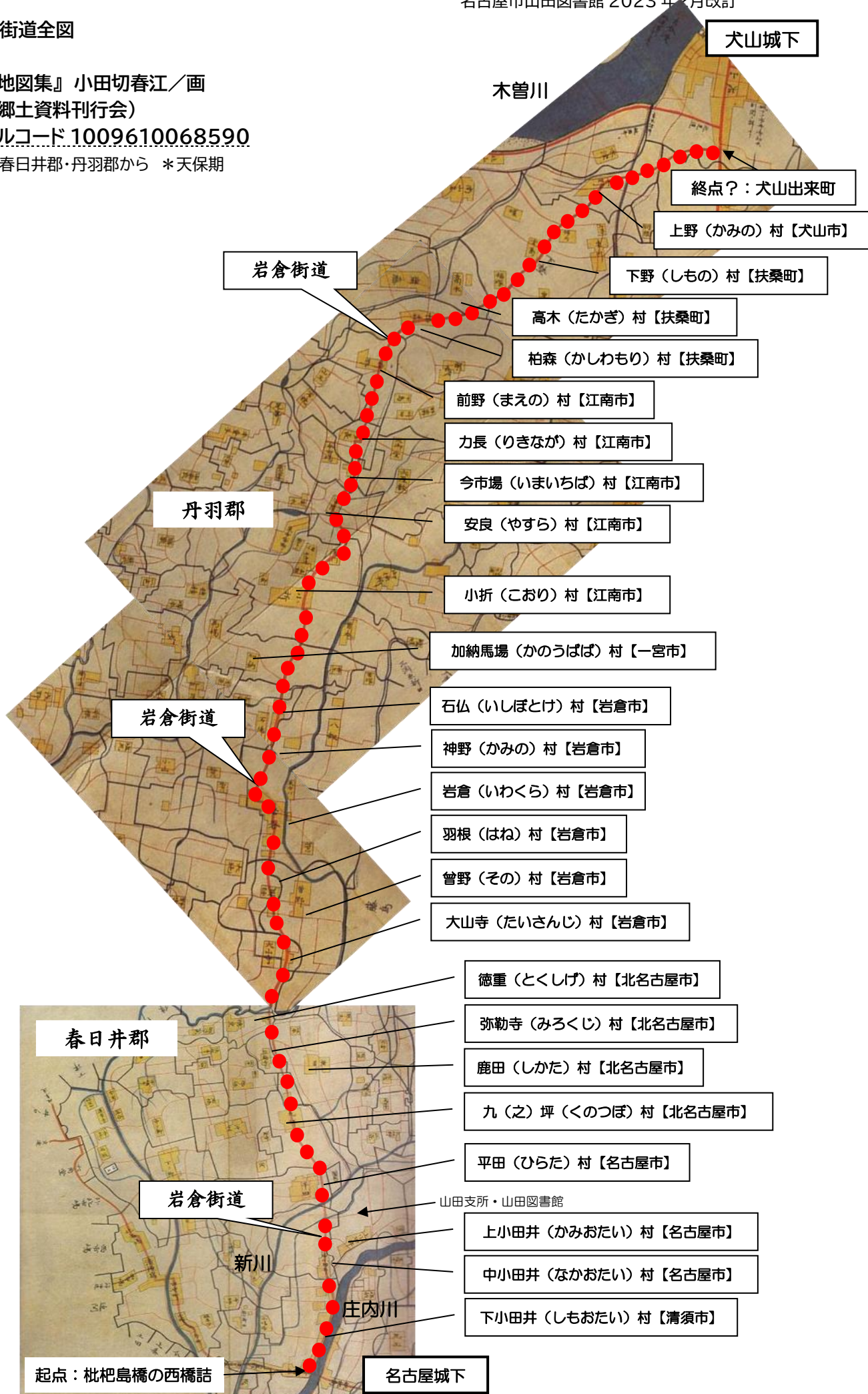
『山田村誌』(山田村誌編纂委員会)タイトルコード 1009210065142 より

■ 岩倉街道全図

『尾張古地図集』小田切春江／画
(愛知県郷土資料刊行会)

タイトルコード 1009610068590

のうち、春日井郡・丹羽郡から *天保期



犬山城下

木曾川

終点?：犬山出来町

上野(かみの)村【犬山市】

下野(しもの)村【扶桑町】

岩倉街道

高木(たかぎ)村【扶桑町】

柏森(かしわもり)村【扶桑町】

前野(まえの)村【江南市】

力長(りきなが)村【江南市】

今市場(いまいちば)村【江南市】

安良(やすら)村【江南市】

小折(こおり)村【江南市】

加納馬場(かのうばば)村【一宮市】

岩倉街道

石仏(いしほとけ)村【岩倉市】

神野(かみの)村【岩倉市】

岩倉(いわくら)村【岩倉市】

羽根(はね)村【岩倉市】

曾野(その)村【岩倉市】

大山寺(たいさんじ)村【岩倉市】

丹羽郡

春日井郡

徳重(とくしげ)村【北名古屋市】

弥勒寺(みろくじ)村【北名古屋市】

鹿田(しかた)村【北名古屋市】

九(之)坪(くのつぼ)村【北名古屋市】

平田(ひらた)村【名古屋市】

山田支所・山田図書館

上小田井(かみおたい)村【名古屋市】

中小田井(なかおたい)村【名古屋市】

下小田井(しもおたい)村【清須市】

岩倉街道

新川

庄内川

起点：枇杷島橋の西橋詰

名古屋城下